

世界平和の礎・日韓トンネルの早期実現を

真の父母様が、唐津のトンネル現場を初視察され、祝福

真のお母様は11月14日午前、佐賀県唐津市の日韓トンネルの調査斜坑の現場を初めて視察され、同事業に取り組む関係者を温かく慰労し、激励されました。1986年10月に調査斜坑の起工式が行われてから30年の節目を迎え、大いなる恩恵と祝福の時間となりました。

国際ハイウェイ・日韓トンネル構想は、1981年11月10日、ノーベル賞受賞者をはじめとする各分野の研究者720人が参加した韓国・ソウルの第10回「科学の統一に関する国際会議」(ICUS)で、真のお父様が提唱。それを受けて1982年春、国際ハイウェイ建設事業団が設立され、86年10月1日、唐津調査斜坑起工式が行われました。現在、600メートルまで掘削が進められています。

生前、真のお父様がこの地を訪問される状況になく、この日が真の父母様の初訪問となり、関係者にとっては感慨深い一日となりました。

式典は、徳野英治・国際ハイウェイ財団会長が司会を担当。ピースロードを通したトンネルプロジェクトの映像を視聴後、現状報告が行われました。

続いて、屋外の式典会場に移動し、大江益夫・国際ハイウェイ財団理事長、李海玉・全国祝福家庭総連合会総会長夫人が真のお母様に花束を贈呈。お母様は「天の父母様に感謝と頌栄を捧げるとともに、今後、あなたが直接主管する中で、このプロジェクトを成し遂げるために準備されたすべての人々を集め、必ずやそのみ旨を成し遂げてくださるよう、切にお願い申し上げます」と祝祷を捧げられました。

日韓の代表によるテープカット、記念撮影に続いて、トンネル内の視察が行われました。

その後、敷地内にある平和公園で、真のお母様をはじめ、文善進・世界平和統一家庭連合世界会長ご夫妻、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長らの手で、「ホルトノキ」を記念植樹。この樹木は常緑樹で、7～8月に白い花を咲かせ、寿命の長い木として知られています。最後に、韓国家庭連合の柳慶錫会長の億万歳で式を終了しました。



調査斜坑の600メートル地点で



植樹式のあと真のお母様を中心に記念撮影

同式典には、韓国から文妍娥^{ムンヨナ}世界平和女性連合会長、韓国統一財団の崔允起^{チェユンギ}理事長らが出席、日韓関係者あわせて200人が参加しました。

真のお父様の日韓トンネル提唱からちょうど35周年の節目を迎えたこの日の真のお母様の初訪問は、ピースロードを通した日韓一体化と南北統一、人類一大家族世界に実現に向けての日韓トンネル推進の大きな弾みになるものと期待されます。



祝祷をされる真のお母様

真の父母様の祝祷

尊貴なる天の父母様。きょうここ、唐津において、これまでみ言に従って30年以上、その責任を果たすために苦勞してきた韓国と日本の息子・娘たちを、あなたは覚えてくださっています。

愛する真の父母様。どれほど待ちわびたこの瞬間でしょうか。

神様はあらゆる精誠を尽くして天地万物を創造され、最後に、人間の先祖となり得るアダムとエバを創造し、喜ばれました。しかし、創造主である神様と絶対的に一つになって成長すべきだった人類の始祖アダムとエバは、自らの失敗により、自分のことだけを考えるようになって、天の父母様の夢を実現することができない方向へと歴史をつくりあげてきました。

しかし、天の父母様は、全知全能で絶対的な主人であられるので、この墮落した人類を放って眺めておくことができず、長い歳月をかけて、選民の名のもとイスラエル民族を育てられ、世界的にローマ帝国の基盤が築かれていたその時、約束されたメシヤを送ってくださいました。

しかし、マリヤとザカリヤ家庭、ユダヤ教とイスラエル民族が責任を果たせず、イエス様が活動できる環境圏を失ってしまった立場で十字架にかからざるを得ない、途方もない恨の歴史を再び人間がもたらしたとき、天の父母様はどれほど胸を痛められたで

しょうか。

それでも、変わる事のない愛で、人類の救いのために再びキリスト教文化圏をつくりながら、2000年という長い歳月を通して、再臨のメシヤ、救世主、真の父母の道を準備してこられた、天の深い事情があったことを、私たちは知っております。摂理歴史において、韓国と日本が父母の国として、天の父母様と人類の前に必ずや責任を果たし得る今回の機会であることを切実に感じながら、改めて今、この唐津の韓日トンネルの現場で、天の父母様に懇切にお願いするので、これまで苦勞した子女たちの願いを、今や直接、天が共にある中で、み意のとおりになさってください。

今日、全世界において、先を予測できない、未来のない暗澹たる現実ばかりが横たわっています。ただ私たちだけが、家庭連合だけが、真の父母様を知って侍る者たちだけが、未来の人類にとって希望であり、天の願いをかなえてさしあげることのできる、唯一のあなたの息子・娘です。そのことについて改めて深く、天の父母様に感謝と頌栄を捧げるとともに、今後、あなたが直接主管する中で、このプロジェクトを成し遂げるために準備されたすべての人々を集め、必ずやそのみ旨を成し遂げてくださるよう、切にお願い申し上げます。きょうはまた、天候においてもあなたが共にいてくださったことに感謝しながら、真の父母様のみ名によって祝福いたします。アーデュ!

天の父母様に対する真のお母様の 孝情の伝統を相続しよう！

宋龍天総会長



①展望台で記念撮影
②展望台から視察される真のお母様



真の父母様に対する食口の皆様のご苦労と精誠に心から敬意を表します。

真のお母様は、日本における 8 日間の特別精誠を終えられ、韓国に到着されるとすぐに韓日の指導者たちを招請され天正宮博物館で日韓海底トンネルの実現のための会議を主宰され、「父母の国である韓国と日本が一つになり父母国家が世界の前に出なければ、今の世界的な混乱を解決する道がない」と語られました。

天の父母様と真のお父様と限りなく疎通をされる中で深い祈禱と精誠を捧げておられるお母様は、会議に参加した韓日の指導者たちに「私が唐津に行かねばならない。私と共に唐津に行こう」と言われ、韓国と日本のトンネル関係者を引き連れ去る 14 日、日韓海底トンネルの唐津現場を視察されました。

今回、真のお母様の 4 日間の期間を通して切実に感じたことは、天の父母様と真のお父様に対するお母様の孝の心情でありました。

1 日中雨が降るという予報通りに朝から雨が降り続く中で、唐津での野外行事が本当にうまくいくだろうかとか心から心配していましたが、お母様は「まったく心配する必要はない」と言われながら、唐津に向かう道中、車内におられた善進様と私に「You Are My Sunshine」をともに歌おうとおっしゃいました。

その瞬間、私は真のお父様と共にした暴風雨が打ち付けたヤンキースタジアム大会を思い出しました。真のお母様と共に天の父母様に対する孝情の心情で「You Are My Sunshine」を唐津現場に到着するまで大きな声で

歌いました。

真のお母様のこのような孝情の込められた歌声に天の父母様も応えてくださり、驚くことにお母様がイベント会場に到着するとすぐに凄まじく降り続けていた雨は、完全に止んでしまいました。ヤンキースタジアムの奇跡のように唐津でも驚くべき奇跡が起こったのです。

そしてその日、現場の会場に参加していた地区長や食口たちの中で真のお母様に同行される真のお父様を見たという証しが多くありました。

今、私たちを導いてくださる真のお母様は、お一人ではありません。常に天の父母様と真のお父様と共におられ、どこかの誰よりも天の父母様と真のお父様の前に孝情の生活をされておられる、真のお母様であられます。

真のお母様は母の国日本の本当の真の主人であられ、人類の真の母であられます。混乱した世界を真なる平和の世界へと導いてくださる偉大な真の師匠であられ天の父母様の下に人類一家族を実現される真の父母様であられるということを私たちの心に今一度刻み、私たちの氏族と周辺すべての人たちの前に堂々と真の父母様を証し、誇る祝福家庭となることができるよう努力しましょう。

真のお母様の実践的で実体的な家庭連合信仰を見習い、摂理に対する真のお母様の強い信念と天の父母様に対する真のお母様の孝情の伝統を相続し、基元節 4 周年までの 120 日特別路程を必ず勝利するようにしましょう。

真の父母様の“夢”である 国際ハイウェイを実現しよう！

徳野英治会長



①徳野会長から報告を受けられる真のお母様ご一行
②歓迎の花束を受け取られる真のお母様



まず始めに、この度の真の父母様による日韓トンネル調査斜坑ご視察に対し、天の父母様と真の父母様に心から感謝を申し上げます。1986 年 10 月に調査斜坑の起工式が行われて 30 周年の節目に、関係者にとっては大いなる慰労と祝福の機会となりました。

さて、日韓トンネルの実現には三つの要素が必要であると考えます。

一つ目は、青函トンネルなどとは異なり、国境を越える日韓トンネルは、民族の壁、国益の壁を越えなければならないという難しい課題があります。まずは韓国の国民感情が良くなっていかなければなりません。

二つ目として、日韓トンネルの実現のためには、日韓両国の首脳による合意が不可欠です。

ドーバー海峡トンネルは、1986 年にサッチャー英首相とミッテラン仏大統領がトップ会談で建設に合意。英仏両国が今後二度と戦争をしないという“不戦の誓い”のもと、トンネル建設に着工し、8 年で開通しました。

3 番目は、技術と予算の問題です。日本がこれまで青函トンネルや本州四国連絡橋などの建設を通じて培った経験と技術力に加え、韓国が持っている高い技術力を駆使すれば、日韓トンネルの建設は十分可能です。

建設予算は少なくとも 10 兆円規模になると試算されていますから、日韓トンネルは国家プロジェクトとして推進していく必要があります。

私は、日韓トンネルを推進していく上で、オリンピックの相互協力が追い風になると考えています。2018 年の韓国・平昌オリンピックに日本が全面的に協力して大成功させる。逆に 2020 年の東京オリンピックは韓国に全面的に協力してもらって大成功を収めることができれば、2020 年の頃には韓国の国民感情は大いに改善していることでしょう。

日韓トンネルはいったん工事が始まれば、最短 10 年間で開通する見込みです。日韓が信頼関係を深めた土台の上で、2020 年頃に両国首脳の合意が実現すれば、早ければ 2030 年に日韓トンネルが完成する可能性があるのです。そのことを真のお母様に報告させて頂くと、お母様は「もっと早く実現できるのではないか」と大きな期待を示されました。

天の父母様と真の父母様の“夢”である日韓トンネルを実現し、最終的には「国際ハイウェイ構想」を私たちの手で成し遂げていきましょう。皆様の変わらぬご支援をお願いします。

世界に平和と繁栄をもたらす「日韓トンネル」

日韓両政府も人的、経済的、技術的交流の活発化に注目



①真の父母様が国際ハイウェイ・日韓トンネル構想を提唱された「第10回ICUS」(1981年11月、ソウル) ②唐津調査斜坑の起工式(1986年10月) ③真のお母様を中心に日本の責任者が記念撮影 ④カートでトンネル内を移動される真のお母様 ⑤「ホルトノキ」とポーズをされる真のお母様 ⑥水質調査用の池で鯉にエサをやられる真のお母様

「私は一つの提案をしたいと思います。それは中国から韓国を通り日本に至る『アジア大ハイウェイ』を建設し、ゆくゆくは、全世界に通じる『自由圏ハイウェイ』を建設することです。これは中国大陆から韓半島を縦断し、トンネルあるいは鉄橋で日本列島に連結して日本を縦断する一大国際ハイウェイで、ここでは自由が保障されるのです。もしこれが建設されるなら、アジア諸国はハイウェイで連結され、一体化することができます」

1981年11月10日、韓国・ソウルにおいて第10回「科学の統一に関する国際会議」(ICUS)が開催。全世界からノーベル賞受賞者をはじめとする各分野の自然科学者、人文・社会科学系学者、文化人など総勢720人が参加した中で、同会議の創設者である真の父母様が「国際ハイウェイ・日韓トンネル構想」を提唱されたのでした。

真の父母様の提唱を受け1982年、「国際ハイウェイ建設事業団」(久保木修己会長)が東京に設立。さまざまな分野の専門家を集めて調査・研究を進め、佐賀県唐津市などで調査工事が行われてきました。2009年には、一般財団法人「国際ハイウェイ財団」が設立され、事業を継承しています。

1983年5月には「日韓トンネル研究会」が東京に創

設されました。同会会長に就任した地質学の権威、佐々保雄・北海道大学名誉教授は、青函トンネルのルートを選定した経歴を持つなど、日韓トンネルを研究するうえで最適任者でした。

国際ハイウェイの実現によって、北東アジア諸国間を人、モノ、資本、サービスが自由に移動できる時代が到来し、経済共同体が構築されれば、この地域に平和と安定そしてピースロードを通しての世界平和をもたらすでしょう。

日韓トンネルによって日韓関係が深化すれば、従来の島国、半島国それぞれの気質や旧来の相互不信を脱却し、共存共栄の新たな関係を構築する契機となります。日韓が歴史的な“怨讐関係”を乗り越えて「平和のトンネルとピースロード」を作ることによって、両国の間に真の平和が生まれるのです。

日本がユーラシア大陸とつながることで、エネルギー輸送ラインと情報ハイウェイが整備され、安全な陸上貫物流システムのハブが確立。これによって北東アジアに巨大経済共同体が誕生し、人、モノ、資本、サービスの交流が円滑になり、技術や産業の平準化も促進されます。その規模は、世界全体の国内総生産(GDP)の4分の1から3分の1にも達すると予測されています。

日韓の首脳がトンネル構想に言及

日韓トンネルの総工費は、約10兆円と言われており、これは間違いなく国家プロジェクトの規模ですが、日韓両政府の首脳も注目しています。

日韓の首脳が2009年1月に合意した「日韓新時代共同研究プロジェクト」は、1年半の共同研究を経て、最終報告書としてまとめられたものですが、そこには、日韓トンネル構想に言及した日韓首脳の発言が、次のように紹介されています。

「日韓海底トンネルに関して、かつては竹下登元首相が検討を指示した経緯がある。羽田^{つとむ}孜元首相も『日本再生プログラム』の一環としてこの構想に関し言及した。森喜朗元首相は、2000年10月のASEM会議で、日本と韓国をつなぐトンネルを作りASEM鉄道という名前を付けようと提案した。また、総理大臣に就任する前の菅直人議員は『日韓海底トンネルにリニアモーターカーを走らせる』と構想に関し言明したことがある。韓国でも、1990年に盧泰愚大統領が訪日時の国会演説において海底トンネルに言及し、海部^{キムデジュン}首相に建設を提議したことがあり、1999年9月には金大中大統領も『日韓

トンネルが建設されれば、北海道からヨーロッパまで結ばれるので、未来の夢として考えてみる問題』と、トンネル建設を提唱した。2003年2月には、盧武鉉大統領が日韓首脳会談でトンネル建設を提案したことがある」(外務省HPより)

合わせて、この「日韓新時代共同研究プロジェクト」レポートは、「日韓の人的、経済的、技術的交流が著しく活発化するはず」と述べ、日韓一体化の新しい未来を開く日韓トンネル構想を高く評価しています。

「海底トンネルの建設は、巨額の金融支援と先進的なトンネル技術を必要とする長期的な未来志向プロジェクトである。日韓両国政府のイニシアティブにより、トンネル建設のための総合的な共同研究を組織して、経済的、技術的な妥当性はもちろん、東アジア安全保障や地域統合に与える効果等を体系的に研究しなければならない。技術的な建設可能性・ルート設定、旅客・コンテナ・自動車流通による物流輸送体制の変容、建設コスト・償還計画などに関して検討することだけでも、このような分野で日韓の人的、経済的、技術的交流が著しく活発化するはずである。このような共同研究を踏まえて、両国指導者は国民の十分な同意を得る方法で、トンネル建設プロジェクトを推進することが望ましい」(外務省HPより)

日韓トンネルを通したピースロードの構想は、歴史的なロマンであり、大いなる技術的挑戦であると同時に、人類愛という普遍的な価値観をベースにアジアに均衡ある発展をもたらす、世界平和と安定的な国際秩序の構築にも貢献するプロジェクトなのです。

激動する世界において恒久平和の道を模索

東京で「国際指導者会議 2016」開催



①開会セッション ②講演をされる文善進議長
③トーマス・ウォルシュ UPF インターナショナル会長 ④宋龍天 UPF 日本リージョン会長
⑤徳野英治 UPF 日本会長



11月16、17日の両日、東京都内で「国際指導者会議 (ILC) 2016」(主催・UPF-Japan など) が開催され、国内外から有識者、平和大使など延べ700人が参加しました。「激動する世界と日本の選択」をメインテーマに、①米新政権と日米関係②中東情勢と和平プロセス③日口関係と北東アジア情勢④激動の時代における青年の役割——の4つの分野で討議を実施。時宜になったテーマと、レベルの高いスピーカー・コメンテーターの参加で、どのセッションも活発な意見交換が行われました。17日には特別セッションが行われ、国内外の国會議員や外交専門家などが多数参加し、「世界平和議員連合」創設提案文を採択しました。

ILCは国連NGOであるUPF(天宙平和連合)が主催し、世界各国で開催されている国際会議です。今年2月に韓国・ソウルで開催されたのを皮切りに、ネパール・カトマンズ(同7月)、ブルキナファソ・ワダドゥー(同8月)、イギリス・ロンドン(同9月)などで開催。今回、日本で行われたILCには、米国、カナダ、ロシア、イスラエルから外交・安全保障問題の専門家らが招聘されました。

16日午後1時半から始まった開会セッションでは、最初に、主催者を代表して林正寿早稲田大学名誉教授が挨拶。イギリスのEU離脱や米国大統領選挙、韓国の動向などを例に挙げながら、現代を「不確実性の時代」と表現した上で、「UPFの創設者である文鮮明・韓鶴子総

裁(真の父母様)がかねて強調してこられたように、今こそ日韓米の協力が不可欠です」と述べました。

また宋龍天・UPF日本リージョン会長は歓迎の辞で、恒久平和実現のために各国の国會議員が果たす役割の大きさについて言及。現在、各国のUPFが主導する国會議員のネットワークづくりについて「文明間の壁や宗教と政治の分断、国益を超えて、真に世界平和を語り合える場所をつくりたいという文鮮明・韓鶴子総裁の着想によるものです」と述べ、その意義を強調しました。

このあと登壇した文善進UPFインターナショナル議長は記念メッセージで、「UPFは宗教間の協力、家庭の強化、国連の使命を支援し、紛争の平和的解決と人道支援に向けたソフトパワーによるアプローチを提唱し続けてきました」と説明。具体的な取り組みの一つとして、未来の人類のために貢献した個人や組織を讃えるための「鮮鶴平和賞」を創設したことを紹介しました。

さらに文善進議長は「私は両親から、自分のためではなく、世界のために生きなければならないと学びました。この哲学と思想は、より高次のガバナンスを指しており、右翼でも左翼でもない頭翼思想は、人類一家族を実現する道を示すとともに真の愛を中心とした恒久平和を導いてくれるものです」と語りました。

その後、トーマス・ウォルシュUPFインターナショナル会長が祝辞を述べ、徳野英治UPF日本会長が専門家セッションの概要を紹介しました。

“トランプ氏は、中国に対し米国の原則を曲げない”

セッション1—米国新政権の政策と日米同盟の展望



①講演をするビル・ガーツ氏
②コメントをするデビッド・キルガー元カナダ国務長官
③講演を聴く参加者



セッション1は「米国新政権の政策と日米同盟の展望」をテーマに行われ、米紙ワシントン・タイムズのコラムニストで、外交・安全保障問題に詳しいビル・ガーツ氏が基調講演を行いました。

ガーツ氏はその冒頭、今回の米国大統領選について言及し、「私はトランプ候補に投票しましたが、言わばクリントン候補への反対票を投じた形です。かつてのクリントン民主党政権の国防スキャンダルが中国の軍事力増強を招き、現在の安全保障に影響を与えています」と指摘。「米国人の多くは、現在が困難な時であると考えています。彼らもトランプに投票したというよりも、オバマ大統領やクリントン候補への反対票を投じたという印象です」と語りました。

また、ガーツ氏はトランプ次期大統領の政策について、「トランプ氏の選挙運動中の発言と実際の政策は分けて考える必要があります。私の経験では、政権は大きなタンカーのようなもので、政策を転換させようとしても簡単にはできないものです」と説明。日本に関する見解の一部を修正していることを例に挙げながら、慎重に見極めていく必要があると述べました。

米中関係についてガーツ氏は、トランプ氏が2000年に出版した著書で「中国は最大の長期的な問題」と表現していることを紹介した上で、「米国はこれまで、中国と貿易を続けていけば、中国の共産主義システムに変化がもたらされ、平和的に脅威をもたらさない国に生ま

れ変わるだろうという発想でやってきましたが、実際にはそれが機能していないというのがトランプ氏の立場です」と説明。「トランプ氏はビジネスマンなので、中国における人権侵害などを無視するのではないかという意見がありますが、実は正反対です。米国は中国と貿易をする上で、米国の原則を曲げるつもりはないことを明確にすべきだという考えなのです」と述べ、トランプ氏は中国に対し厳しい認識を持っているとの見方を示しました。

安全保障政策についてガーツ氏は、「トランプ氏は軍事力行使について寛容であり、レーガン政権のような『力による平和』という考え方を共有しています」と指摘。トランプ氏がオバマ政権下で削減された国防予算を回復させていくと予測するとともに、日本もその恩恵を受けるだろうと語りました。

ガーツ氏の講演を受け、専門家2人がコメントしました。

米国の有力シンクタンクの元研究員は「米国の変化の背景が十分に日本に伝わっていません」と強調した上で、「2001年9月の米同時テロ発生以降、米国本土が安全保障上の脅威にさらされています。国防予算を国内にも向けざるを得ず、米国が“世界の警察官”として復活することはないでしょう」と語りました。

また、カナダのデビッド・キルガー元国務長官は、中国の人権問題などについてコメントをしました。

“平和の創造は私たちの義務”

セッション2—混迷する中東情勢と和平へのプロセス

セッション2では「混迷する中東情勢と和平へのプロセス」をテーマに、イスラエルのイエヒエル・ヒリク・バール国会副議長が講演しました。

バール氏は講演の中で、イスラエル・パレスチナ問題の解決は、互いを国家と認める“2国共存”しかないと強調。「平和は特権ではないし、高価なものでもありません。平和を待つのではなく、つくらなければなりません。それが私たちの義務です」と結びました。

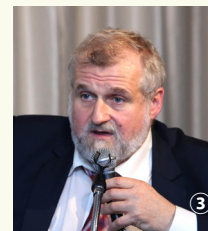


“日口は経済交流を通して信頼関係の構築を”

セッション3—緊迫する北東アジア情勢と日口関係の展望

12月に予定されている日口首脳会談を前に、両国関係の進展に注目が寄せられる中、「緊迫する北東アジア情勢と日口関係の展望」をテーマに行われたセッション3では、ロシア人専門家2人が発題を行いました。

ロシア科学アカデミー主任研究員のウラジミール・ペトロフスキー氏は、今年が日ソ共同宣言の調印から60周年、サンフランシスコ講和条約締結から65周年の記念の年に当たることに言及。その上で、北方四島をめぐる領土問題について「経済協力とは別案件」というロシアの立場を説明しつつも、日口の経済協力強化と平和大使らによる人と人との交流の必要性を強調しました。



トーマス・ウォルシュ UPF インターナショナル会長は活動報告の中で、宗教間の問題を解決するためには、教義による対話ではなく、共生するための共通項を見つけ出す対話が必要との認識を示しました。

また、国連機関日本政府代表部の元大使がコメントし、日本が中東和平に貢献できることとして、経済・技術協力のほか、敵対している人々を結びつける草の根運動の推進を提案しました。

ロシア経済開発省ディレクターのヴィクトル・ラズベギン氏は、北東アジアを結ぶ交通、エネルギー、情報などのインフラ整備の可能性について発表。北極海に光ファイバーを通して英国ロンドンと東京を結ぶ情報インフラの整備を紹介し、「単に日口を連結するだけでなく、北東アジアの開発のためにも重要」と訴えました。

これに対し、オセアニアや欧州で駐在経験のある元大使は、「日口間に信頼感が十分に醸成されていなくとも、実利があり関係性を発展できるならば、まずはビジネスパートナーとして信頼関係の構築を目指すべきです」とコメントしました。

多文化共生や地方創生について意見交換

セッション4—日本創生の可能性と青年の役割

セッション4は「日本創生の可能性と青年の役割」のテーマのもとで行われ、青年や大学生など150人が集いました。

朴仁渉 UPF インターナショナル理事の激励の辞から始まり、大学教授の基調講演、各界で活躍中の青年リー



ダーによるパネルディスカッションと続き、最後は参加者全員でのグループディスカッションを実施。日本の課題である多文化共生や地方創生について話し合う中で、参加者一人ひとりが課題解決に対し責任意識を持つようになりました。

①イスラエルのイエヒエル・ヒリク・バール国会副議長 ②ウラジミール・ペトロフスキー・ロシア科学アカデミー主任研究員 ③ヴィクトル・ラズベギン・ロシア経済開発省ディレクター ④朴仁渉 UPF インターナショナル理事

国会議員のネットワークは“信頼の懸け橋”

特別セッション—世界平和に貢献する国会議員の役割



翌11月17日、東京・千代田区の国会施設で「世界平和に貢献する国会議員の役割」をテーマに「特別セッション」が行われ、国会議員とその関係者など約100人が参加しました。

冒頭、国会議員が挨拶し、「現在は先の見えない混迷した世界情勢の中にあります。しかし、皆で一生懸命に知恵を出し合い、より良い世界を築いていこうとすれば、新しい道が切り開かれるはずですよ。この会議が国会議員の新しい役割を見出す機会になればと思います」と述べました。

次に、宋リージョン会長が歓迎の挨拶を述べ、「今、国会議員による平和のイニシアチブが必要とされています。UPFによるこの取り組みは、文明間の壁や宗教と政治の分断、国益を超えて、真に世界平和を語り合える場所をつくりたいという文鮮明・韓鶴子総裁の着想によるものです」と同セッションの意義を説明しました。

続いて、文善進 UPF インターナショナル議長が UPF 創設者である韓鶴子総裁のメッセージを代読されました。

その中で韓総裁は、「善なる統治システムは法律と政策によって確保されるのではなく、権力を持つ者が良心と普遍的な道徳的信念、善なる人格を持つことによって確保されます」と述べ、国会と国会議員の役割について強調。

また、国連における超宗教議会の設置や国連第5事務局を韓半島の非武装地帯(DMZ)に設置する構想などを提案した上で、「世界の国会議員が調和と協力を持っ



①韓鶴子総裁のメッセージを代読される文善進 UPF インターナショナル議長 ②講演するペトロフスキー・ロシア科学アカデミー極東研究所主任研究員 ③「世界平和議員連合」創設提案文に署名する参加者

て集えば、喜びと幸福と恒久的な平和の世界をつくることができます」と呼び掛けられました。

このあと、ペトロフスキー・ロシア科学アカデミー極東研究所主任研究員が講演し、「日口関係を政治的側面だけではなく、人的交流も含めた多角的な視点で見ることが必要。それを通して最終的には領土問題も解決できると信じています」と語りました。

ウォルシュ UPF インターナショナル会長は「平和と人間開発における国会議員の重要性」と題して講演。「世界平和に向けた国会議員のネットワークの形成は、国家間に信頼の橋をかけていく取り組みです」と述べ、これまで開催されてきた各国 ILC の様子を紹介しました。

最後に徳野会長が閉会の辞を述べ、集った国会議員らに対し恒久平和の実現に向け積極的なリーダーシップを促すとともに、各国の国会議員による連携への参加を呼びかけました。

国会議員を始めとする参加者が「世界平和議員連合」創設提案文が記されたボードに署名し、セッションは終了しました。